

日本学術会議活動状況報告

会長及び副会長報告資料



# 日本学術会議活動状況報告

令和5年4月17日

前回（第186回）総会以降の活動状況報告

## 第1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
12月6日（火）	第22回国際栄養学会議	梶 田 会 長
12月6日（火）	第20回CIGR（国際農業工学会）世界大会2022	菱 田 副 会 長
12月14日（水）	防災推進国民会議	菱 田 副 会 長
12月21日（水）	記者会見	梶 田 会 長 望 月 副 会 長 菱 田 副 会 長 高 村 副 会 長 小林アドバイザー
1月11日（水）	公開シンポジウム「物理学におけるジェンダーギャップの現状と対策・物理教育の役割」	梶 田 会 長
1月25日（水） ～26日（木）	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022（オンライン）	梶 田 会 長 高 村 副 会 長
1月26日（木）	記者会見	梶 田 会 長 望 月 副 会 長 菱 田 副 会 長 高 村 副 会 長 小林アドバイザー
1月30日（月） ～31日（火）	「声明 内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」（令和4年12月6日）について再考を求めます」に関する日本学術会議協力学術研究団体、外部団体への説明会（オンライン）	梶 田 会 長 望 月 副 会 長 菱 田 副 会 長 高 村 副 会 長 小林アドバイザー
1月30日（月）	日本私立大学協会との意見交換	菱 田 副 会 長 小林アドバイザー
1月31日（火）	公立大学協会との意見交換	梶 田 会 長

		菱田副会長 小林アドバイザー
1月31日(火)	国立大学協会との意見交換	梶田会長 菱田副会長 小林アドバイザー
2月1日(水)	日本私立大学連盟との意見交換(オンライン)	梶田会長 菱田副会長 小林アドバイザー
2月7日(火) ～8日(水)	Gサイエンス学術会議2023 執筆会議(オンライン)	梶田会長 高村副会長
2月9日(木)	国立研究開発法人協議会との意見交換	梶田会長 菱田副会長
2月15日(水)	日本学術会議 in つくば	梶田会長 望月副会長 菱田副会長 高村副会長
2月15日(水)	日本オープンイノベーション大賞授賞式	梶田会長
2月20日(月)	英国王立協会会長・副会長とのバイ会談(オンライン)	梶田会長 高村副会長
2月22日(水)	記者会見	梶田会長 望月副会長 菱田副会長 高村副会長 小林アドバイザー
3月7日(火) ～8日(水)	Gサイエンス学術会議2023	梶田会長 望月副会長 菱田副会長 高村副会長
3月7日(火)	Gサイエンス学術会議代表者による総理表敬及び 共同声明手交	梶田会長 高村副会長
3月7日(火)	Gサイエンス学術会議代表者等による後藤大臣へ の共同声明の説明	梶田会長 高村副会長
3月8日(水)	日本経済団体連合会イノベーション委員会企画部 会	菱田副会長 小林アドバイザー

3月8日(水)	Gサイエンス学術会議代表者等による共同記者会見	梶田会長 高村副会長
3月9日(木)	公益財団法人日本科学振興財団評議委員会	梶田会長
3月10日(金)	公開シンポジウム「第8回理輪応用力学シンポジウムー力学の深化に向けてー」	菱田副会長
3月11日(土)	学術フォーラム「食料システムから地球温暖化の抑制を考える」	高村副会長
3月14日(火)	九州・沖縄地区会議学術講演会「潜在的なエネルギー・資源(Future Resource)に着目した学術研究」	梶田会長
3月15日(水)	令和5年電気学会全国大会本部企画シンポジウム「カーボンニュートラルの時代に「電気」が果たす役割～未来につなぐ夢を語ろう」	梶田会長
3月22日(水)	学術フォーラム「研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進」	望月副会長
3月22日(水)	第69回大河内記念賞贈賞式	梶田会長
3月23日(木)	記者会見	梶田会長 望月副会長 菱田副会長 高村副会長 小林アドバイザー
3月28日(火)	国際学術団体役員等のプラットフォーム会合(オンライン)	高村副会長
3月29日(水)	Science7・Think7・Civil7共同記者会見	高村副会長
4月5日(水)	Future Earth Governing Council(オンライン)	高村副会長
4月7日(金)	駐日欧州連合大使との会談	梶田会長 高村副会長
4月16日(日)	W7(Women7)Japan	高村副会長

## 第2 会長談話・会長メッセージ

次の会長メッセージを発出した。

- 1 「日本学術会議の在り方についての方針」に関する懸念事項(会長メッセージ)

(令和4年12月14日公表)

### 第3 提言等の承認

#### ○声明

日本学術会議

「内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」（令和4年12月6日）について再考を求めます」

(令和4年12月21日公表)

#### ○回答

日本学術会議（オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会）

「研究DXの推進－特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から－に関する審議について」

(令和4年12月23日公表)

### 第4 地方学術会議

- 1 「日本学術会議 in つくば」を令和5年2月15日（水）に開催した。

### 第5 学術フォーラム

- 1 日本学術会議主催学術フォーラム「地球規模のリスクに立ち向かう地域研究 ウクライナ危機に多角的に迫る」を令和4年12月10日（土）に日本学術会議講堂（オンライン併用）にて開催した。
- 2 日本学術会議主催学術フォーラム「食料システムから地球温暖化の抑制を考える」を令和5年3月11日（土）に日本学術会議講堂（オンライン併用）にて開催した。
- 3 日本学術会議主催学術フォーラム「研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進」を令和5年3月22日（水）に日本学術会議講堂（オンライン併用）にて開催した。

### 第6 国際会議の開催

- 1 共同主催国際会議「第20回CIGR（国際農業工学会）世界大会2022」を令和4年12月5日（月）～10日（土）に京都府にて開催した。
- 2 共同主催国際会議「第22回国際栄養学会議」を令和4年12月6日（火）～11日（日）に東京都にて開催した。

- 3 「持続会議な社会のための科学と技術に関する国際会議 2022」を令和5年1月25日（水）～26日（木）にオンラインで開催した。
- 4 「Gサイエンス学術会議 2023」を令和5年3月7日（火）～8日（水）に東京都にて開催した。

## 第7 日本学術会議地区会議

- 1 中部地区会議主催 学術講演会「三重の海の多様性から広がる学術研究」を令和4年12月9日（金）にオンラインで開催した。
- 2 九州・沖縄地区会議主催 学術講演会「潜在的なエネルギー・資源（Future Resource）に着目した学術研究」を令和5年3月14日（火）に佐賀県（オンライン併用）にて開催した。

## 第8 会員の辞職及び任命

### 1 会員の辞職

西村正治会員が、令和5年1月29日付で定年退職した。

## 第9 慶弔等

### 1 慶事

#### ・令和4年度文化功労者 令和4年11月3日公表

伊賀 健一（元会員（第20期）、元連携会員（第21-22期））

小山 貞夫（元連携会員（第20-21期））

西川 恵子（連携会員（第20-25期））

吉田 稔（元連携会員（第22-23期））

#### ・日本学士院新会員 令和4年12月12日公表

天野 浩（連携会員（第25-26期）、元連携会員（特任）（第23期））

磯貝 彰（元会員（第20-21期））

小田部 胤久（連携会員（第24-25期））

鈴木 厚人（元連携会員（第20-21期））

十倉 好紀（元会員（第20期）、元連携会員（第21-24期））

吉田 和彦（会員（第24-25期）、元連携会員（第20-24期））

#### ・第5回日本オープンイノベーション大賞 選考委員会特別賞 令和5年1月20日公表

永富 良一（元連携会員（第23-24期））

・ 日本国際賞 令和5年1月24日公表

中沢 正隆 (元連携会員 (第20-24期))

・ 日本学士院賞 令和5年3月13日公表

幾原 雄一 (元連携会員 (第19-22期))

篠崎 一雄 (元連携会員 (第20-23期))

篠崎 和子 (元連携会員 (第19-20期))

長澤 寛道 (元連携会員 (第21-22期))

藤木 幸夫 (元連携会員 (第17期、第19-23期))

・ みどりの学術賞 令和5年3月10日公表

倉田 のり (元会員 (第22-23期)、元連携会員 (第20期、第24-25期))

津村 義彦 (元連携会員 (特任) (第22期))

2 弔事

- ・ 本田 和子 (元会員 (第19期)、元お茶の水女子大学長)

令和5年2月12日 享年92歳

**第10 その他**

事務局人事異動

事務局次長

旧：金子 昇一

新：熊谷 勝美

(令和5年4月1日付)

管理課長

旧：中里 正明

新：大久保 敦

(令和5年4月1日付)



2023年4月17日

# 2022年12月から2023年3月の活動報告

第187回総会  
第25期 日本学術会議会長  
梶田 隆章

## 報告の内容

- 日本学術会議の在り方に関する政府の検討への対応
- 内閣府及び文部科学省からの審議依頼への対応
- 主な国際活動
- 幹事会声明・会長談話・会長メッセージ一覧
- 記者会見一覧
  
- (参考) 会員任命問題に取り組む際の基本的考え方

# 日本学術会議の在り方に関する政府の検討への対応

## 令和4年

- 12月21日 声明「内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」(令和4年12月6日)について再考を求めます」の取りまとめ
- 12月27日 「内閣府『日本学術会議の在り方についての方針』に関する懸念事項(第186回総会による声明に関する説明)」公表

## 令和5年

- 1月30日、31日 声明「内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」(令和4年12月6日)について再考を求めます」について、連携会員・協力学術研究団体等を対象とする説明会の開催
- 2月16日 幹事会において、内閣府から「日本学術会議法の見直しについての検討状況」について説明・質疑
- 2月22日 幹事会において、「2月16日臨時幹事会における内閣府からの「検討状況」説明についての懸念事項」を公表
- 4月 5日 幹事会において、内閣府から「日本学術会議法の見直しについての検討状況」について説明・質疑

# 日本学術会議の在り方に関する学術会議の対応

- ・ホームページに会長から社会に向けたメッセージ動画「対話の始まりとして」を掲載
- ・ホームページに学術会議の在り方に関する政府方針・懸念事項等の関連資料をまとめた特設ページを開設し、トップページにバナーを設置
- ・日本学術会議の在り方についての方針に対する学協会等からの声明をまとめて公表
- ・日本経済団体連合会イノベーション委員会企画部会との意見交換の実施(菱田副会長、小林アドバイザー)



## 内閣府及び文部科学省からの審議依頼への対応

- 令和4年3月23日 内閣府大臣官房総合政策推進室長及び内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官から審議依頼【研究DXの推進—特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から—】

オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会  
(委員長:喜連川優連携会員)  
→回答「研究DXの推進—特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から—に関する審議について」を取りまとめ(令和4年12月23日)

- 令和4年12月27日 文部科学省科学技術・学術政策局長から審議依頼【論文の査読に関する審議について】

科学者委員会 学術体制分科会 論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会  
(委員長:佐々木裕之会員)  
→回答の取りまとめに向けて審議中

## 主な国際活動

令和5年

1月25日～26日 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022

2月20日 英国王立協会会長との会談

3月 7日～ 8日 Gサイエンス学術会議2023

3月 7日 Gサイエンス学術会議代表者による総理表敬及び共同声明手交

3月 7日 Gサイエンス学術会議代表者等による後藤大臣への共同声明の説明

3月28日 国際学術団体役員等のプラットフォーム会合(会長欠席)

4月 7日 駐日欧州連合大使との会談

# 幹事会声明・会長談話・会長メッセージ一覧

## ＜会長メッセージ＞

- 「日本学術会議の在り方についての方針」に関する懸念事項(令和4年12月14日)

## (参考)

- 会長から社会に向けたメッセージ動画「対話の始まりとして」の公表(令和5年1月26日)

# 記者会見一覧

年月日	主な会見内容
令和4年12月21日	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 日本学術会議第186回総会資料</li><li>➤ 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022</li><li>➤ 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に掲げた具体的な取組事項の進捗状況</li><li>➤ 直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について</li><li>➤ 声明 内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」(令和4年12月6日)について再考を求めます</li></ul>
令和5年1月26日	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 声明「内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」(令和4年12月6日)について再考を求めます」等に関する説明会の開催について</li><li>➤ 直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について</li><li>➤ 日本学術会議の在り方についての方針に対する声明一覧</li></ul>
令和5年2月22日	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 2月16日臨時幹事会における内閣府からの「検討状況」説明についての懸念事項</li><li>➤ 岸田文雄首相に対し日本学術会議の独立性および自主性の尊重と擁護を求める声明等</li><li>➤ 声明「日本学術会議法改正につき熟慮を求めます」</li><li>➤ 日本学術会議の在り方についての方針に対する声明一覧(令和5年2月22日時点)</li><li>➤ Gサイエンス学術会議2023の開催について</li><li>➤ 直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について</li></ul>
令和5年3月23日	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 第26-27期会員・連携会員選考対象者数</li><li>➤ 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に掲げた具体的な取組事項の進捗状況</li><li>➤ 直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について</li><li>➤ 日本学術会議の在り方についての方針に対する声明一覧(令和5年3月23日時点)</li></ul>
(参考) 令和5年3月8日	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ Gサイエンス学術会議2023共同記者会見</li></ul>

## (参考)

### 任命問題に取り組む際の基本的考え方(令和4年4月総会)

1. 第24期の第180回総会において会員候補者として推薦することが決定された全員の任命、すなわちいまだ任命されていない6名の方々の任命を求める。
2. 日本学術会議法は第七条の3項において、3年ごとに会員210名の半数にあたる105名を任命することを内閣総理大臣に求めている。したがって99名は任命されたものの、任命されなかった6名がいる限り、任命行為は完了していない。そのことの是正を図れるのは内閣総理大臣だけである。
3. 政府が「一連の手続きは終了している」という立場をとっていることに留意し、上の2点の原則を踏まえてどのような対応が可能かを多様な観点から検討する。
4. 会員候補の選考および内閣総理大臣への推薦の決定は、法に基づき会則に定められた総会の承認事項であり、その見直しを要するような手続きを踏むことを求められた場合、会長や幹事会にはその判断を行う権限はない。そのような場合には、総会に対して事実経過を正確に報告した上で、総会による判断を求める。

## 任命問題に取り組む際の基本的考え方(追加)(令和4年8月総会)

- 任命されていない6名の会員候補者の名簿を改めて提出する用意があると提案
  - 「一連の手続は終了している」という政府の立場についての補足→菅前総理答弁「この99名を任命した時点において、6名の皆様については候補者じゃなくなっております。」「もう一度やり直しをする場合には、学術会議側から提示してもらうという形になるだろうというふうに思います。」(令和2年11月5日、参議院予算委員会)
  - 第24期に適正な手続きのもとに選考されて候補者とされた6名は、これを候補者としめない合理的な理由の説明がないもとでは、候補者から外すことはできない。
  - 政府の立場と学術会議の考え方との整合性を図る→そのためには、6名の方々を再度「候補者」として確認することで、学術会議から「再推薦」して「候補者」とし、任命のための「一連の手続き」の「再開」を求める。
  - 「再推薦」に際しては、推薦する6名の「候補者の氏名を記載した書類」を提出する方法には、複数の選択肢がありうる。
  - この前提として選考・任命過程が、独立して職務にあたる日本学術会議が独立して自律的に行う選考・推薦の過程と、推薦を受けて任命を行う内閣総理大臣の権限とに二分されるという理解。

## 任命問題に取り組む際の基本的考え方(追加)(令和4年8月総会)

- 任命されなかった6名の方々を欠員を補充する補欠の候補者として推薦することはありうるのかという、記者会見でたびたび出された質問には、以下の考え方で対応
  - ① 令和2年10月に任命されなかった6人は、3年ごとに行われる半数改選に際して会員候補者として推薦したものであり、任期の途中で生じた定年等による欠員を補充するための候補者として推薦することは考えていない
  - ② 第25期の補欠の選考はあくまで第25期の会員として任命された方々の定年等による欠員の補充を行うものであり、そのための規定も整備している。したがって、そもそも任命されなかった方々をそれと同列に扱うことは制度的にできないというのが私たちの考え方である。

## 松野内閣官房長官との対話（第1回R4年3月16日、第2回8月3日）

### 【梶田会長からの提案】

- ・ 任命されていない6名の会員候補者の名簿を改めて提出する用意。

### 【松野長官の回答】

- 候補者の選定を改めて行うことはせず、名簿を出し直すだけのものと理解。実質的に従来と変わらず、「一連の手続は終了した」という政府の考え方と相いれない。「未来志向」という点からもそぐわない。

### 【松野長官からの提案】

- ・ 未来志向の観点から、新たな選考プロセスの考え方を踏まえて、改めて候補者選考を行うことを検討いただきたい。例えば、この秋から、次期の半数改選に向けての候補者選考が始まると承知。次期の候補者選考を進める中で解決を考えていくのも一案。
- ・ 「一連の手続は終了」という政府の立場も考慮した上で、改めて解決の道を考えていただけないか。

### 【梶田会長の回答】

- 令和2年の半数改選における候補者選考は法令に定める手続に則って学術会議として責任を持って行ったもの。手続に瑕疵はないため、選考のやり直しについて会員の理解を得るのはハードルが極めて高い。
- 難しい提案だと思うが、持ち帰って検討したい。

◎ 双方とも、引き続き対話を重ねていくことを確認。



# 日本学術会議総会報告

## 組織運営・科学者間の連携

(2022.12.8～2023.4.17)

- 1 科学者委員会・同分科会
- 2 地区会議
- 3 地方学術会議
- 4 若手アカデミー
- 5 財務委員会

2023年4月17日

担当副会長 望月 眞弓

## 1. 第25期科学者委員会の構成

(分科会等の活動状況)

- 1) 科学者コミュニティに関する全体的課題の検討
- 2) 5分科会の課題の調整



# 1. 科学者委員会

(委員長:望月 眞弓)

## ■開催実績

◇第23回～第26回 メール審議

- ・提言案「大学・研究機関における男女共同参画推進と研究環境改善に向けた提言—2019年アンケート調査結果を踏まえて—」について
- ・記録案「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ—連続公開シンポジウムの記録—」について
- ・論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会の設置について
- ・地区会議主催学術講演会の開催について
- ・令和5年度各地区会議事業計画について
- ・協力学術研究団体の指定について ほか

## 1-1. 男女共同参画分科会

(委員長:望月 眞弓)

●科学に関する男女共同参画の推進に関することを審議することを目的とする

女性活躍促進目標(30%)の達成に向けて

- 24期で実施した大学・研究機関や学協会の実情の調査を基に、改善に向けて検討

ジェンダー関連分科会の24期までの活動を総括

- 共通課題を整理するとともに、今後の課題を明確化する

学術におけるダイバーシティの推進(LGBTQ/障がい者/外国籍など)の推進

- 現状を調査・分析し、今後の課題を整理

2024年の夏に東京で開催を予定している国際女性史連盟主催の国際学会

- 国内の研究者が多くの国々の研究者とネットワークを構築できるよう検討

## 1-1. 男女共同参画分科会

(委員長:望月 真弓)

### ■会議開催状況

#### ◇第16回 メール審議

- ・記録案「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ—連続公開シンポジウムの記録—」について

#### ◇第17回(2022.12.27)

- ・アンケート検討小分科会からの提言案の検討
- ・令和5年3月22日開催学術フォーラムの打合せ
- ・性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会の見解の発出報告

### ■シンポジウムの開催等

#### ◇学術フォーラム「研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進」(2023.3.22)

## 1-1. 男女共同参画分科会

### 1-1-1. アンケート検討小分科会

(委員長:三成 美保)

### ■審議事項

- ①24 期に実施した全国的なアンケートの結果を分析する。
- ②分析結果を科学的助言としてまとめ、意思の表出を行う。
- ③データを適切に管理し、学術会議関係者及び研究者が利用できるように整理する。
- ④文系及び理系の学協会連合が実施したアンケート結果との比較分析を行い、情報を関係組織と共有する。

### ■会議開催状況

#### ◇第4回(2022.12.19)アンケート提言案の審議

### ■意思の表出申出書(提言案)の提出

「大学・研究機関における男女共同参画推進と研究環境改善に向けた提言—2019年アンケート調査結果を踏まえて—」

## 1-1. 男女共同参画分科会

### 1-1-2. 性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会(委員長:渡辺 美代子)

#### ■審議事項

- ①性差による科学の成果や効果を示すデータの収集
- ②性差研究による科学的エビデンスから導かれる課題の抽出
- ③上記に関するジェンダー関連情報の収集と課題の抽出
- ④ジェンダーに基づく科学技術イノベーションの科学者コミュニティと社会への周知と啓発

#### ■会議開催状況

◇第13回(2023.2.24)省庁との意見交換、今後の活動について

## 1-1. 男女共同参画分科会

### 1-1-3.ジェンダー研究国際連携小分科会

(委員長:高橋 裕子)

#### ■審議事項

- ①国内の学協会及び研究会との連携
- ②日本学術会議内ジェンダー関連分科会との学際的な連携
- ③研究者の国際的なネットワーク構築

#### ■会議開催状況

期間中の会議開催は無し

## 1-1. 男女共同参画分科会

### 1-1-4. ジェンダー教育推進小委員会

(委員長:岡部 美香)

#### ■ 審議事項

- ① 総合的・学際的な視野からジェンダー教育の現状を分析し、社会の構造的な課題を明示する(特に、都市部と地方の格差、経済的な格差、生活文化の影響などに目配りする)。
- ② ジェンダー平等を推進するための教育のあり方に関して、教育のみならず、経済、労働、政治、福祉などの各領域にかかわる政府・地方自治体の各部署に向けて提言を発する。
- ③ 関連諸学会はもちろん、一般市民に向けた啓発活動を企画する。

#### ■ 会議開催状況

期間中の会議開催は無し

## 1-2. 学術体制分科会

(委員長:吉村 忍)

・学術の制度・振興等に関する諸問題を審議することを目的とする。

#### 第6期科学技術・イノベーション基本計画のフォローアップ

- ・ 前期提言発出後に科学技術基本法が改正され、「イノベーションの創出」の概念が追加されたほか、第一条の「人文科学のみに係るものを除く」規定が削除され、法律及び基本計画の名称が変更された
- ・ 1部・2部・3部の部を超えた取組が一層重要となっている

#### 研究インテグリティに関する検討

- ・ 学術分野においてオープン化、国際化が急速に進展する中で、研究インテグリティの観点から、国内外の現状調査、課題の整理、今後の対応方策について検討
- ・ 今後、関係機関のヒアリング等を実施予定

#### その他

- ・ 学術体制・学術法制の国際比較調査・課題の整理
- ・ 中長期的観点から、学術を学際的・文理融合的に推進するための在り方の検討に関する事

## 1-2. 学術体制分科会

(委員長: 吉村 忍)

### ■ 会議開催状況

◇ 第11回(2022. 12.20)

これまでの経緯の報告、今後の審議の進め方及び意思の表出について

◇ 第12回(2023. 1.18)

論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会の設置及び委員について

■ 「研究インテグリティ」という考え方の重要性について(会長メッセージ、2022.7.22)

■ 「研究インテグリティに関する論点整理」改訂版の公表

■ 先端科学技術と「研究インテグリティ」の関係について(小林科学技術政策担当大臣への会長からの回答、2022.7.25)

## 1-2. 学術体制分科会

### 1-2-1. 論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会(委員長: 佐々木 裕之)

#### ■ 審議事項

① 査読の意義・重要性についての検討

② 査読を実施する際の規範となる対応指針(投稿者、査読者、編集者等など)について、分野間の違い等を含めた検討

③ 査読の意義を貶める不正行為についての検討

④ 審議結果を取りまとめ、学術体制分科会に報告すること

#### ■ 会議開催状況

◇ 第1回(2023.2.8) ・小委員会の概要説明、役員を選出、今後の進め方について

◇ 第2回(2023.3.9) ・有識者からの話題提供及び意見聴取、アンケート調査について

◇ 第3回(2023.3.27) ・生命科学分野の研究者からの意見聴取

## 1-3. 学協会連携分科会

(委員長:米田 雅子)

・学協会連携分科会は、学協会と日本学術会議の連携の推進と、学協会の機能強化に関する諸課題を審議することを目的とする

### 連携

- ・日本学術会議と学協会の新たな連携体制づくりの検討

### 規程見直し

- ・学協会、学会連合、連携体等のあり方を検討するとともに、協力学術研究団体の規定の見直しを検討

### 学協会法人化

- ・学協会の法人化における諸課題の整理と学術団体にふさわしい法人形態の検討

## 1-3. 学協会連携分科会

(委員長:米田 雅子)

### ■会議開催状況

◇第8回(2023.2.17)

「日本学術会議の在り方についての政府方針」のアカデミアに及ぼす影響について、学協会や学協会連携も踏まえた議論

# 協力学術研究団体

## ■協力学術研究団体

2,118団体(2023年3月現在)

## 12月総会以降の承認団体

4団体

- ・日本離婚・再婚家族と子ども研究学会
- ・小出記念日本語教育学会
- ・日本英語英文学会
- ・一般社団法人日本システムデザイン学会

## 1-4. 研究評価分科会

(委員長:武田 洋幸)

### ■ 審議事項

- ①研究評価のあり方についての全体的検討
- ②関連する過去の提言等のフォローアップ
- ③国内外の研究評価のあり方についての調査
- ④分野別研究評価のあり方についての検討
- ⑤若手支援としての研究評価のあり方についての検討
- ⑥24期の審議結果を提言としてまとめる

### ■ 会議開催状況

◇第6回(2023.2.3)

報告について

◇第一部に所属する10の分野別委員会の委員長他に対して、人文学・社会科学系分野における「社会的インパクト」に関するヒアリング調査を実施(2022.11.2～2023.2.27)

### ■ 意思の表出申出書の提出

「人文・社会科学の研究による社会的インパクトの創出 ～分野事例に基づく研究インパクト評価のあり方」

## 1-5. 学術研究振興分科会

(委員長:光石 衛)

### ◆24期「研究計画・研究資金検討分科会」を再編

#### ➤学術研究振興に関する課題を検討

- 重要な学術研究の計画に関する検討
- 研究資金(科研費・寄付金等)に関する諸問題の検討
- 研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出

### ■会議開催状況

#### ◇第9回(2022.12.2)

分野別委員会への小委員会委員推薦依頼、策定のプロセス及び今後のスケジュールについて

#### ◇第10回(2023.3.10)

各ワーキンググループにおける検討状況、未来の学術振興構想の策定について

## 1-5. 学術研究振興分科会

### 1-5-1.未来の学術振興構想評価小委員会

(委員長:光石 衛)

### ■審議事項

- 提案される「学術の中長期研究戦略」の評価
- 記載される「学術振興のビジョン」の分類・統合及び「未来の学術振興のグランドビジョン」の取りまとめ案の作成等

### ■会議開催状況

#### ◇第1回(2022.12.23)

小委員会の概要説明、役員を選任、審査・評価プロセス、WGの設置について

## 2. 地区会議

### ■地区会議の活動

- 科学者との懇談会の開催・学術講演会等の開催・地区会議ニュース等の発行・地域社会の学術の振興に寄与することを目的とする事業など

### ■全7地区会議(学術講演会等の実施)

- (1)北海道
- (2)東北(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)
- (3)関東(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県)
- (4)中部(富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)
- (5)近畿(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)
- (6)中国・四国(鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県)
- (7)九州・沖縄(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)

## ◆地区会議(学術講演会 2022年12月～23年3月)

### ◆学術講演会

開催日	地区	開催形式	演題	挨拶	参加者	備考
12月9日 (金)	中部	オンライン 開催	『三重の海の多様性から拓がる学術研究』	高村 副会長	113名	三重大学 と共催
3月14日 (火)	九州 沖縄	佐賀大学 (ハイブリッ ド開催)	「潜在的なエネルギー・資源 (Future Resource) を活用した転換技術の革新と電力エネルギーの高効率化」	梶田会長	134名	佐賀大学 と共催

### ◆地区会議ニュース

【令和5年3月発行】

北海道地区(No53)、東北地区(No37)、中部地区(No153)

近畿地区(No32)、中国・四国地区(No54)

※九州・沖縄地区は、3月14日開催の学術講演会(佐賀大学)の報告を掲載するため、令和5年4月以降に発行予定。

※各地区の会員・連携会員の他、教育機関・研究機関等に配布するとともに、学術会議ホームページにも掲載。

## 3. 地方学術会議

地方創生に関する取組を従来より強化するため、平成30年度から地方学術会議の開催を決定

### ■「日本学術会議 inつくば」

日時:2023年(令和5年)2月15日(水)

会場:国立研究開発法人 防災科学技術研究所

共催:国立研究開発法人 防災科学技術研究所、同 国立環境研究所

#### 第一部 幹事会懇談会

幹事会構成員等と茨城県の産学関係者、民間企業・市民団体の代表による懇談

#### 第二部 学術講演会(参加者:283名)

「持続的かつレジリエントな道筋への移行」



### 【成果】

つくば学園都市の国立環境研究所と防災科学技術研究所を中心とする学術分野と、関東地区の行政、民間企業、市民組織が協力して、持続的かつレジリエントな道筋への移行について議論し、環境・開発と防災・減災の取り組みの共通点と違い、両者の協働推進方策を取りまとめた。

## 4. 若手アカデミー

(委員長:岩崎 渉)

### ●若手アカデミー(25期 51名、うち連携会員(特任)8名)

45歳未満である会員又は連携会員のうち積極的な参加意思を持つ者

8つの分科会による活動

科学者委員会や附置委員会等への参加

- 2022年12月に南アフリカケープタウンで開催された世界科学フォーラムにおいて、Distributive Justiceに関するセッションをJSTと共催
- 2023年3月に日本学術会議で開催されたGサイエンス学術会議において、共同声明執筆およびパネルディスカッションに参加
- 見解「2040年の科学・学術と社会を見据えて取り組むべき10の課題～イノベーション・越境研究・地域連携・国際連携・人材育成・研究環境～」の発出に向けた議論および執筆作業

## 5. 財務委員会報告

(委員長:望月眞弓)

### ■2022年度の活動

#### ■2022年度予算執行管理

審議等予算に関し、予算執行状況の確認等を行い、2022年度限りの特殊事情により設置された国際委員会・Gサイエンス学術会議2023執筆対応小分科会等への再配分を行った。

#### ■2023年度予算配分

2023年度審議等予算については、オンライン審議の推進に伴う旅費の減額を除き、ほぼ同額が措置されており、配分については、2023年3月の幹事会懇談会で報告した。

### ■2023年度予算執行に関する体制

2022年度から引き続き、各部の予算計画・執行管理は各部に委ねる。審議等予算の配分区分毎に責任者を設置し、責任者、事務局間で緊密な連携を図る。

また、財務委員会においても予算執行状況を注視し、情報の共有を図るとともに、柔軟な予算管理に努める。

## 【副会長報告】

# 科学的助言等対応委員会、広報委員会、 課題別委員会等の活動状況に関する報告

＜令和4年12月～令和5年3月の活動＞



令和5年4月17日

科学と社会委員会担当副会長

菱田 公一

## 科学的助言等対応委員会の活動

### 科学的助言機能の見直し

幹事会

科学的助言等  
対応委員会

#### 【目的】

科学者の代表機関として、人文・社会科学、生命科学、理学・工学の学術全分野にまたがる**分野横断的な観点から、中長期的視点・俯瞰的視野に立ち、説得力ある科学的助言を行う。**

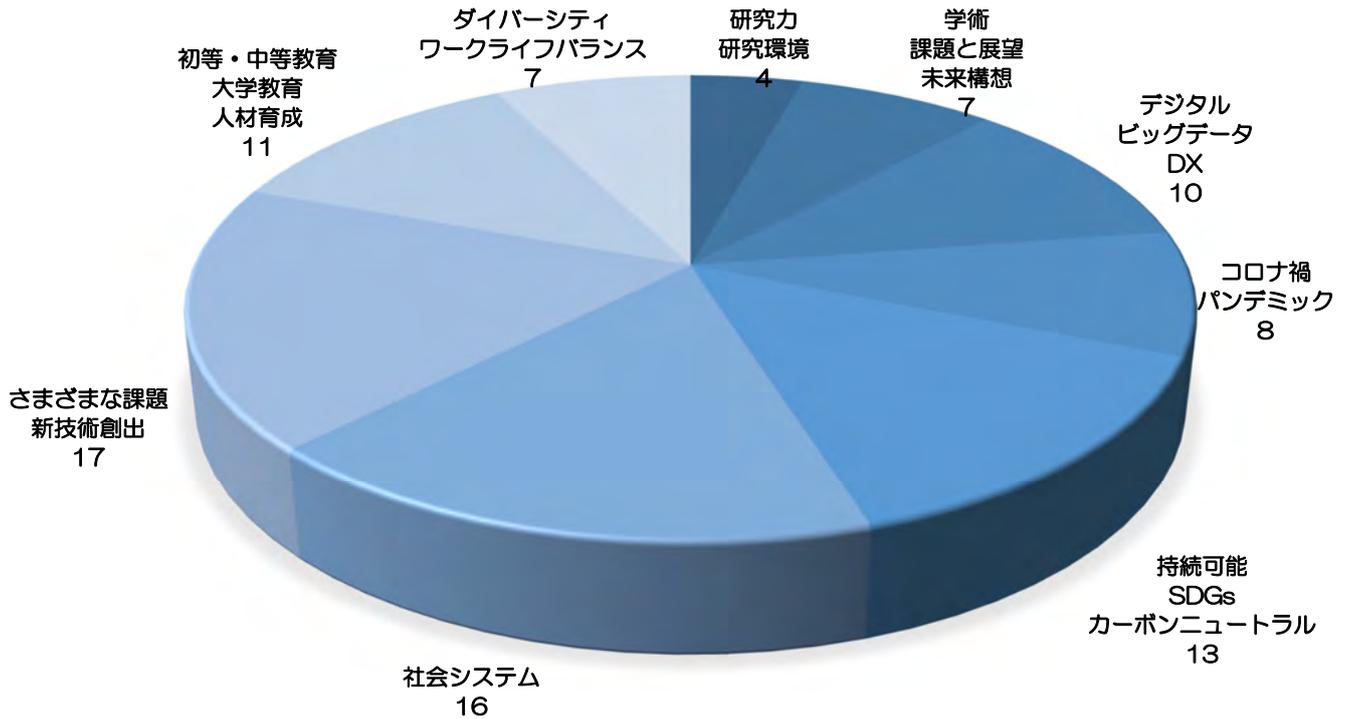
#### 【主な見直し内容】

- 「**科学的助言等対応委員会**」を設置。課題設定から査読・公表まで、科学的助言活動の全体を把握・分科会等の連携促進。
- 「提言」を委員会・分科会名での発出から、**学術会議名での発出**に変更  
※総合的・俯瞰的な見地から、政府や広く社会に向けた提案を発表。内部審査手続を厳格化（課題設定段階での確認、査読手続の強化）
- 委員会・分科会名による意思の表出として、「**見解**」を新設  
※専門的見地から提案を発表するもの、社会的な議論を喚起するため多様な意見を提示するものとし、意思決定手続を迅速化
- 「提言」や「見解」として**満たすべき事項\***の明確化  
\*学協会等で代替可能ではないか、読者・名宛人を明確にして立案しているか、関係機関等との意見交換の場を設けているか等
- 課題設定や科学的助言の作成過程における**意見交換の実施**（学協会、政策関係者、産業界、NGO・NPO等）
- 査読体制・手続の整備**

#### 【科学的助言等対応委員会の活動状況】

- 委員長・副委員長・幹事・副幹事による役員会を、概ね2週間に1回開催して議論
- 委員会の発足以降、委員会・分科会等から提出された**申出書に対して、助言を実施**あわせて、過去10年間に行われた意思の表出との関連等についても情報提供

# 「意思の表出」申出の分類①（全93件の内容や趣旨による分類）



出典：相田美砂子会員（科学的助言等対応委員会委員）作成資料

# 「意思の表出」申出の分類②（デジタル、ビッグデータ、DXの例）

2022-028（回答）課題別委員会  
 ○オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会  
 「研究DXの推進—特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から—に関する審議について（依頼）」

2023-016(055)（提言）第一部  
 ○地域研究委員会  
 ・地域情報分科会  
 「地名データベースの構築と地名専門組織・機関の設置に向けて」

2023-043(082)（見解）課題別委員会  
 ○オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会  
 「オープンサイエンス及びデータ駆動型科学の推進に向けて（仮）」

2023-002(041)（見解）第一部  
 ○社会学委員会  
 ・社会統計調査アーカイブ分科会  
 「社会統計調査データの政策的な活用について」

2023-008(047)（見解）第一部  
 ○言語・文学委員会、哲学委員会、心理学・教育学委員会、社会学委員会、史学委員会、地域研究委員会、情報学委員会合同  
 ・デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会  
 「デジタル時代に即した人間・文化・社会研究の包括的な基盤構築に向けて（仮題）」

2022-007（見解）第三部  
 ○総合工学委員会、機械工学委員会合同  
 ・計算科学シミュレーションと工学設計分科会  
 「計算科学を基盤とした産業競争力強化を推進する人材育成とエコシステムのあり方」

2022-026（見解）第三部  
 ○情報学委員会  
 ・デジタル社会を支える安全安心技術分科会  
 「安全安心なデジタル社会の構築にむけて（仮題）」

2023-032(071)（見解）第三部  
 ○総合工学委員会  
 ・科学的知見の創出に資する可視化分科会  
 「科学的知見の創出に資する可視化—ビッグデータのビジュアル分析を基盤とする分野横断型デジタル視考—」

2022-036（報告）第一部  
 ○社会学委員会  
 ・web調査の課題に関する検討分科会  
 「社会的ビッグデータの公共的な利活用に向けて（仮称）」

2023-010(049)（報告）第二部  
 ○健康・生活科学委員会  
 ・看護学分科会  
 「With/Afterコロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション（仮題）」

枠の色  
 ・課題別委員会、機能別委員会：緑色系  
 ・第一部：オレンジ系  
 ・第二部：桃色系  
 ・第三部：青色系

出典：相田美砂子会員（科学的助言等対応委員会委員）作成資料

## 「意思の表出」申出の分類③（コロナ禍、パンデミックの例）

2023-006(045) (提言) 第一部

- 史学委員会
  - ・歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会
  - 「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料・記録、記憶の保全と継承に向けて（仮題）」

2023-039(078) (提言) 課題別委員会

- 人口縮小社会における問題解決のための検討委員会
- 「深化する人口縮小社会の諸課題—コロナ・パンデミックを超えて」

2023-012(051) (見解) 第一部

- 地域研究委員会
  - ・人文・経済地理学分科会
  - 「コロナ禍を踏まえた新たな国土形成計画の実施に向けて（仮題）」

2022-018 (見解) 第一部

- 社会学委員会
  - ・社会福祉学分科会
  - 「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り取り残さない制度・支援への変革～」

2023-011(050) (見解) 部設置委員会（第二部）

- 第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会
- 「高リスク感染症への対策を進める必要がある（仮題）」

2023-019(058) (見解) 第二部

- 臨床医学委員会
  - ・老化分科会
  - 「ウィズコロナを見据えたレジリエントな、かつ安心感ある医療ケア体制の再構築とまちづくり」

2022-009 (報告) 第二部

- 歯学委員会
  - ・臨床系歯学分科会、病態系歯学分科会、基礎系歯学分科会
  - 「新型コロナウイルス感染症およびコロナ禍における口腔に関連した諸問題とその対応2021」

2023-026(065) (報告) 第二部

- 健康・生活科学委員会
  - ・看護学分科会
  - 「with/afterコロナ時代の地元創成看護学の実装」

枠の色

- ・課題別委員会, 機能別委員会: 緑色系
- ・第一部: 桃色系
- ・第二部: 桃色系
- ・第三部: 青色系

出典: 相田美砂子会員 (科学的助言等対応委員会委員) 作成資料

## 「意思の表出」申出の分類④（持続可能、SDGs、カーボンニュートラルの例）

2022-037 (見解) 第二部

- 食料科学委員会
  - ・水産学分科会
  - 「我が国における中長期的な水産資源の利用のあり方」

2023-021(060) (見解) 第二部

- 農学委員会
  - ・農業生産環境工学分科会
  - 「国内における気候変動下での農業適応策と食料安定供給」

2022-022 (見解) 第三部

- 土木工学・建築学委員会
  - ・気候変動と国土分科会
  - 「気候変動に伴う水災害の頻発化・激甚化に対応した将来の市街地土地利用を実現するために～今、科学・技術に求められるもの～（仮）」

2023-001(040) (見解) 第三部

- 総合工学委員会 機械工学委員会合同
  - ・工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
  - 「カーボンニュートラル施策のリスク検討フレームの構築（仮題）」

2023-017(056) (見解) 第三部

- 総合工学委員会
  - ・エネルギーと科学技術に関する分科会
  - 「活動的緑辺域における持続可能な洋上風力開発に向けて—海底地質リスク評価の重要性—」（仮題）

2023-029(068) (見解) 第三部

- 地球惑星科学委員会
  - ・地球・惑星圏分科会
  - 「持続可能な社会のための地球衛星観測の統合的戦略立案の必要性について」

2023-035(074) (見解) 第三部

- 機械工学委員会
  - ・生産科学分科会
  - 「持続可能社会を支える生産科学の課題（仮）」

2022-034 (報告) 第一部

- 経営学委員会
  - ・SDGsと経営実践・経営学・経営学教育を検討する分科会
  - 「サステナブル経営の実現をめざして：経済的価値と社会的価値の統合」

2023-030(069) (報告) 第二部

- 農学委員会
  - ・林学分科会
  - 「持続可能な森林経営における現状と課題：市町村による新たな森林管理の枠組みと森林環境税の役割」

2022-015 (報告) 第三部

- 環境学委員会
  - ・環境政策・環境計画分科会
  - 「産業界へのサステナブル投資によるインパクトとその評価（仮）」

2022-035 (報告) 第三部

- 土木工学 建築学委員会 環境学委員会合同
  - ・脱炭素社会分科会
  - 「脱炭素都市を取り巻く現状と課題」

2023-023(067) (報告) 第三部

- 総合工学委員会
  - ・エネルギーと科学技術に関する分科会
  - 「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題（仮題）」

2023-050(089) (報告) 第三部

- 材料工学委員会 環境学委員会 総合工学委員会合同
  - ・SDGsのための資源・材料の循環使用検討分科会
  - 「資源循環とカーボンニュートラルの両立に向けた課題とわが国が取り組むべきサーキュラーエコノミー対策」

枠の色

- ・課題別委員会, 機能別委員会: 緑色系
- ・第一部: 桃色系
- ・第二部: 桃色系
- ・第三部: 青色系

出典: 相田美砂子会員 (科学的助言等対応委員会委員) 作成資料

## 内閣府からの審議依頼への対応

### <研究DXの推進－特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から－>

- i. これまでの日本学術会議における検討を踏まえ、研究データの共有・公開も含めたオープンサイエンスに対する日本学術会議としての考え方のとりまとめ
- ii. 大学・国立研究開発法人等において必要となる研究データ管理・利活用のための課題の整理と具体的方策（管理・活用体制の整備方策、人材確保・育成方策など）
- iii. 各分野の多様性を踏まえ、今後のデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項（研究者間の連携、情報技術や計算資源の活用事例など）、データ共有への具体的取組方策（データ共有へのインセンティブ付与のための方策、分野間連携のためのコミュニケーションのあり方など）

<回答>（令和4年12月23日）

- i. 日本学術会議は、データ駆動型科学が近年広く進展し多様な成果を生み出す中で、その中核ともいえる研究データの共有・公開を推し進めようとするオープンサイエンスの考えに強く賛同。
- ii. 次の3つを提案する。
  - 【提案1】研究者が容易に利用可能な研究データプラットフォームの構築
  - 【提案2】データプロフェッショナルの育成と多面的な研究評価の実現
  - 【提案3】モニタリング機構に基づくデータ駆動型研究の不断の改善
- iii. 次の3つを提案する。
  - 【提案4】研究自動化（ARW）に向けた情報技術、計算資源の集約
  - 【提案5】分野を越えた連携を実現するFAIR原則の追求
  - 【提案6】法制度面でのデータガバナンスの構築

→回答の内容については、本年3月9日に開催されたCSTII「健康・医療戦略推進に係る有識者による合同意見交換会」において、  
も、「オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会」喜連川委員長から説明。

## 文部科学省からの審議依頼への対応

### <査読不正>

令和4年12月、文部科学省から日本学術会議会長に対し、査読の意義等を踏まえ、査読に係る研究者が直面する課題に関して下記の事項を審議依頼

- i. 査読の意義・重要性
- ii. 査読を実施する際の規範となる対応指針（投稿者、査読者、編集者など）
- iii. 査読を実施する際に想定される不適切な行為

○令和5年1月 科学者委員会学術体制分科会の下に、「論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会」を設置

○令和5年2月 第1回小委員会を開催

- ・役員を選出（委員長：佐々木裕之 第二部会員、副委員長：小林傳司 第一部会員）
- ・6月までに月2回程度開催する方針を決定
- ・有識者からのヒアリング、会員及び連携会員に対するアンケートを実施
- ・今期中に依頼事項に対する回答を取りまとめ

○令和5年3月～4月 第2回、第3回、第4回小委員会を開催

- ・有識者からのヒアリングを実施
- ・アンケート項目の検討

## 課題別委員会の開催状況

	委員会名	設置時期	委員数	実績
1	防災減災学術連携委員会	令和2年10月2日	22名	11回
2	人口縮小社会における問題解決のための検討委員会	令和2年10月3日	20名	8回
3	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会	令和2年10月29日	27名	11回
4	オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会	令和2年11月26日	21名	10回
5	自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会	令和2年12月24日	27名	9回
6	学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会	令和3年1月28日	13名	3回
7	大学教育の分野別質保証委員会	令和3年3月25日	16名	0回
8	我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会	令和3年6月24日	17名	13回
9	ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会	令和3年7月29日	11名	6回

## 情報発信力の強化①

実施項目	内容
1 庁舎内のネットワーク再構築・Wifiの充実	すべての会議室・執務室に有線LAN・無線wifiを設置し、オンライン開催が可能に。
2 SINET（学術情報ネットワーク）への接続	日本全国の大学、研究機関等の学術情報基盤として、国立情報学研究所が構築、運用中の情報ネットワーク。大学・研究機関の種々の資源にアクセスでき、学術会議内での委員会の御審議や提言作成の際に利用可能に。安定的な高速ネットワークの利用により、総会などの多人数が参加するオンライン会議等の円滑な開催が可能に。令和4年4月よりSINET6へ移行。
3 eduroam（国際学術無線LANローミング基盤）の導入	会員・連携会員が本務のIDにより日学無線LANシステムにアクセス可能に。
4 Zoom会議、Zoomウェビナーの導入	オンライン会議、オンラインシンポジウム等の開催がよりスムーズに。
5 クラウド・コンテンツ・マネジメントBOXの導入	委員会等で蓄積したデータを会員連携会員等で相互に利活用可能に。 会員同士のスムーズな文書ファイルの共同編集や動画の共有などが可能に。 （使用事例・効果） ・会議における資料配布が不要に。 ・文書の修正履歴が残ることから、意見照会等の確認作業が容易に。 ・文書の処理履歴や案件履歴が残ることから、一案件ごとにフォルダを作成することで当該文書の進捗状況の確認が容易に。 ・動画等の大容量データの共有が容易に。 ・会議のオンライン参加者におけるその場限りの要回収資料の共有を、閲覧モードを使用して対応。

## 情報発信力の強化②

実施項目	内容
6 オンライン対応機材の導入	講堂機器やPCの入替え、シンポジウム等オンライン配信機材を導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>高性能Webカメラを導入し、クリアで見やすい映像配信が可能に。</li> <li>配信用の専用PCを用意し、多彩な映像表現が可能に。</li> <li>講堂の音響設備を更新し、クリアな音源配信が可能に。</li> </ul>
7 情報関係のスタッフの充実化	上席学術調査員の配置 情報対応職員（常駐）の配置 オンライン配信スタッフ（非常駐）の配置
8 会議の文字起こしクラウド AI GIJIROKUの導入	会議音声などのテキストデータ変換が出来るクラウドサービス、AI GIJIROKUを導入、議事録作成の迅速化と作業の軽減が可能に。
9 YouTubeの活用	学術フォーラム等の情報発信時、一般の利用者の多いインターネットサービスを利用することにより、国民が参加しやすい情報発信が可能に。

## 情報発信力の強化③

### 会長メッセージ動画の掲載

ホームページに会長から社会に向けたメッセージ動画「対話の始まりとして」を掲載



### 学術会議の在り方に関する特設ページの開設

ホームページに学術会議の在り方に関する政府方針・懸念事項等の関連資料をまとめた特設ページを開設し、トップページにバナーを設置



### 日本経済団体連合会との意見交換

日本経済団体連合会イノベーション委員会企画部会との意見交換の実施  
 ※概要は「経団連タイムス 2023年3月30日 No.3585」に掲載



# 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の進捗状況

## (1) 国際活動の強化

【狙い】日本の科学者の代表機関として、**国際的な学術・アカデミーの連携強化**

【具体的取組】

- 世界のリーディング・アカデミーとの連携強化、「日本学術会議の国際戦略」の策定
- 国際学術団体等との連携強化（国際学術会議の役員や、次期会長への日本人選出等で既に成果）
- 国際学術団体役員等のプラットフォーム会合の開催
- G7サミットにあわせて本年3月に日本でGサイエンス学術会議を開催（テーマ：気候変動、ヘルス、海洋）

## (2) 科学的助言機能の強化

【狙い】人文・社会科学、生命科学、理学・工学の学術全分野にまたがる**分野横断的な観点から、中長期的視点・俯瞰的視野に立ち、説得力ある科学的助言を発出**

【具体的取組】

- 学術会議として重点的、かつ分野横断的に議論すべき課題\*を推進するために、関係する委員会・分科会を連携させる仕組みを構築  
\*カーボンニュートラル（ネットゼロ）、パンデミックと社会、基礎科学年
- 「未来の学術振興構想」の策定に向けた取組（「学術の中長期研究戦略」の公募）
- 審議依頼への対応（研究力強化、研究DXの推進、論文の査読）
- 「意思の表出」の質向上の取組

## (3) 対話を通じた情報発信力の強化

【狙い】対話の機会の充実を図り、**国民、行政、産業界等各層との双方向のコミュニケーションを通じて社会の関心・ニーズを的確に把握**。社会が求める科学的知見を情報発信

【具体的取組】

- 学術フォーラムやシンポジウムの開催を通じ、科学の成果・正しい知識を国民へ伝達・浸透  
※第25期当初から、新型コロナウイルス、カーボンニュートラル関係のテーマを重点的に展開
- 関係府省の**政策担当者との意見交換**の実施、学協会、大学関係機関との連携
- 産業界出身の科学者の審議への参画（連携強化について審議する分科会委員として追加）

## (4) 会員選考プロセスの見直し

【狙い】社会に開かれた選考に向け、**会員候補選考に関する説明責任を強化**

【具体的取組】

- 求められる会員像等を示した「選考方針」を策定・公表済。策定に当たっては外部有識者を始めとする**第三者の意見も聴取**
- 会員候補者に関する情報提供依頼先を拡大（学協会に加え、大学関係団体、産業界等）  
※推薦1,063名、現会員・現連携会員本人の承諾1,257名  
※情報提供：協力学術研究団体479団体から1,785名、関係機関・団体12団体から37名
- 部を超えた選考枠を拡大し、学際分野や新たな学術分野からも積極的に会員を確保



# 日本学術会議 国際活動報告



2023年4月

第25期 国際活動担当副会長 高村ゆかり



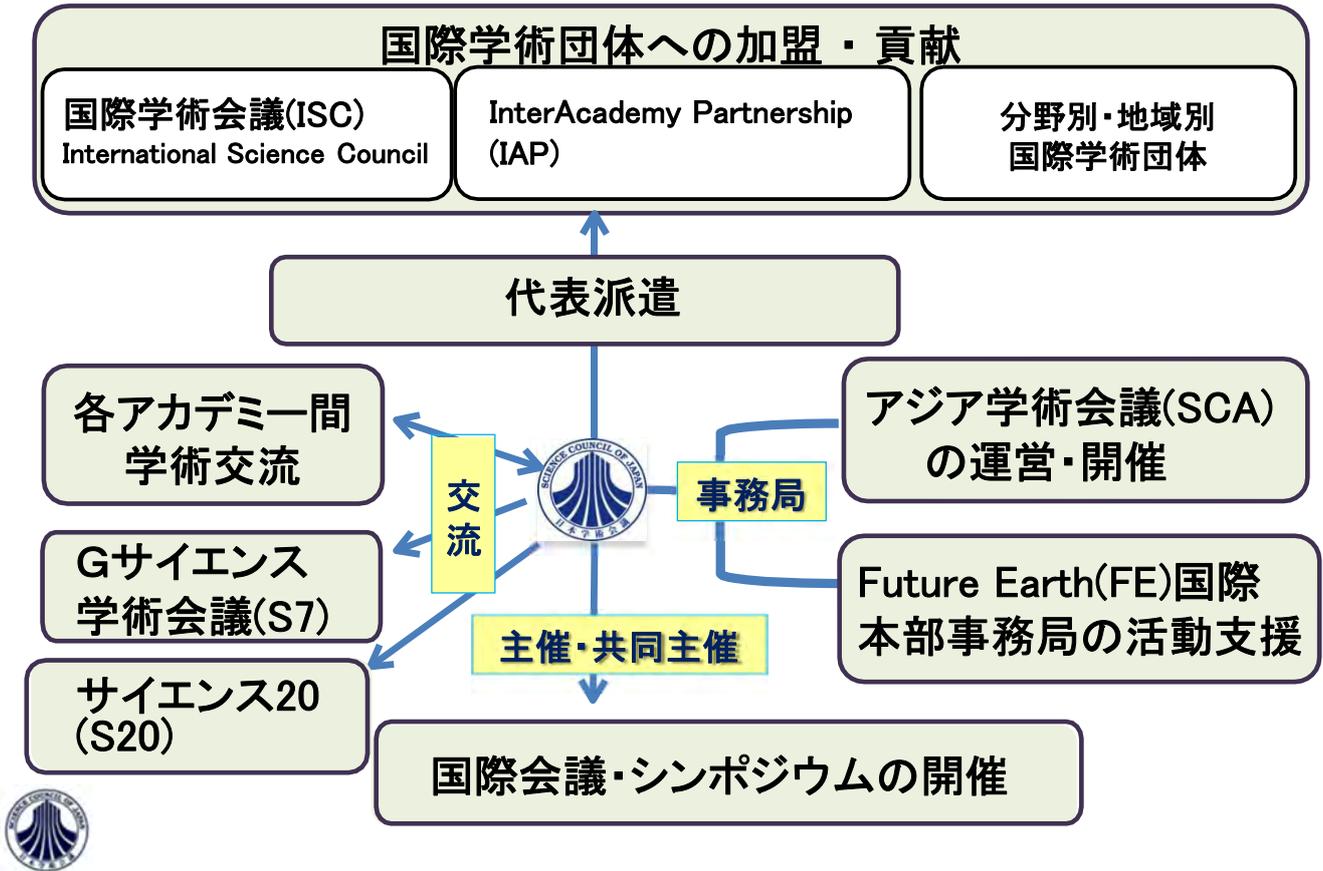
## 第25期の活動方針

日本学術会議のより良い役割発揮に向けた検討を踏まえ、  
国際活動のさらなる発展を目指す

1. 地球規模課題等への対応について、  
各国アカデミーや国際学術団体等との交流や連携強化
  - ✓ 国際学術会議(ISC)への積極的参画や、インターアカデミーパートナーシップ(IAP)等加入国際学術団体等に対するより一層の貢献
  - ✓ Gサイエンス学術会議(S7)やサイエンス20(S20)等における各国アカデミーとの連携強化
  - ✓ 次世代科学者の参加機会の創出・拡大
2. アジア地域におけるリーダーシップの発揮
  - ✓ アジア学術会議(SCA)の運営・開催等
3. 国内外に向けた情報発信の強化
  - ✓ 日本学術会議の国際活動、その成果のわかりやすい発信



# 国際活動の全体像



## 個別の報告内容

1. 各国アカデミーとの連携・交流  
 (① Gサイエンス学術会議(S7)/②S20/  
 ③二国間の交流・連携強化/④APM/⑤WSF)
2. 加入国際学術団体等への貢献  
 (①代表派遣/②ISC/③IAP)
3. 国際学術会議の共同主催及び後援
4. 国際学術会議の主催(持続会議)
5. アジア学術会議(SCA)の運営
6. フューチャー・アースの国際的展開
7. 国内外への情報発信

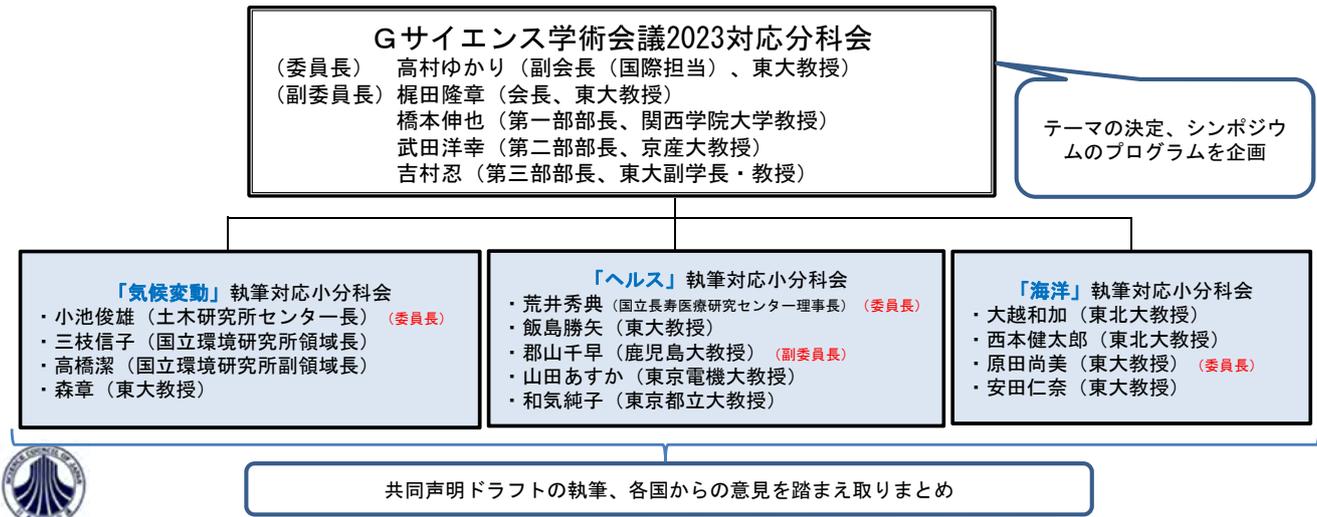


# 1. 各国アカデミーとの連携・交流①

## ● Gサイエンス学術会議2023(Science 7 (S7))①

- ✓ Gサイエンス学術会議2023対応分科会により共同声明のテーマが決定され、分科会の下に設置された各執筆小分科会によって、以下の共同声明が取りまとめられた。
  - 気候変化に伴うシステムリスクに対応する分野横断的意思決定を支える科学技術
  - 知見の共有とイノベーションによる高齢者の健康増進とより良いwell-beingの実現
  - 海洋と生物多様性の再生・回復

(参考)Gサイエンス学術会議2023における日本学術会議の検討体制



## ● Gサイエンス学術会議2023(Science 7 (S7))②

- ✓ 2023年3月7日G7各国アカデミー代表から岸田総理に共同声明を手交し、各共同声明の概要を後藤大臣へ説明した。
- ✓ 同日にGサイエンス学術会議2023シンポジウムを主催。各国アカデミー代表・招請者等による基調講演やパネルディスカッションを実施。合計160名程度が参加(現地参加者60名、オンラインでの参加100名程度。現地参加者には日学関係者や各国代表者も含む)。
- ✓ 3月8日は非公開セッションを開催。共同声明のG7サミット等へのアウトリーチや社会における科学の役割等について議論した。その後、各国アカデミー代表及び招請者による共同記者会見を行った。



シンポジウムでの集合写真



共同声明を岸田総理に手交するG7各国アカデミー代表



(Gサイエンス学術会議2023シンポジウムプログラム)

[https://www.youtube.com/watch?v=R\\_zZphrU-P0](https://www.youtube.com/watch?v=R_zZphrU-P0)

3月7日(火)		
10:00-10:30	開会挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>梶田 隆章</li> <li>後藤 茂之(内閣府特命担当大臣(経済財政担当))</li> <li>高村 ゆかり</li> </ul>
10:30-11:30	Session 1: 気候変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>「気候変動」執筆対応小分科会(小池俊雄委員長、高橋潔委員、森章委員)</li> <li>イアン・ウィギンズ(英国王立協会国際部長)</li> <li>ミシェル・トランブレ(カナダ王立協会科学アカデミー会長)</li> <li>三村 信男(茨城大学地球・地域環境共創機構教授)</li> </ul>
11:30-12:30	Session 2: ヘルス	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヘルス」執筆対応小分科会(郡山千早副委員長、飯島勝矢委員、和気純子委員)</li> <li>アラン・フィッシャー(フランス科学アカデミー会長)</li> <li>マリア・クリスティーナ・マルクツツォ(イタリア・リンツェイ国立アカデミー国際担当役員)</li> </ul>
13:30-14:30	Session 3: 海洋	<ul style="list-style-type: none"> <li>「海洋」執筆対応小分科会(原田尚美委員長、大越和加委員、西本健太郎委員、安田仁奈委員)</li> <li>ジェラルド・ハウグ(ドイツ科学アカデミー・レオポルディーナ会長)</li> <li>マルシア・マクナット(全米科学アカデミー会長)</li> </ul>
14:45-15:30	Session 4: 社会と科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>梶田 隆章</li> <li>高村 ゆかり</li> <li>ナリンダー・クマール・メヘラ(インド国立科学アカデミー副会長)</li> <li>ピーター・グルックマン(国際学術会議会長)</li> <li>フィリップ・ロッシ(グローバルヤングアカデミー理事)</li> <li>マリア・クリスティーナ・マルクツツォ(イタリア・リンツェイ国立アカデミー国際担当役員)</li> </ul>
15:30-15:35	閉会挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>梶田 隆章</li> </ul>
3月8日(水)		
10:00-12:05	非公開 セッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同声明をどのようにG7サミット等にアウトリーチしていくか</li> <li>社会における科学の役割はどうあるべきか 等を議論</li> </ul>
12:10-12:45	共同記者会見	—



## Gサイエンス学術会議2023シンポジウム 参加者

G7各国アカデミー代表	
カナダ	ミシェル・トランブレ(カナダ王立協会科学アカデミー会長)
フランス	アラン・フィッシャー(フランス科学アカデミー会長)
イタリア	マリア・クリスティーナ・マルクツツォ(イタリア・リンツェイ国立アカデミー国際担当役員)
ドイツ	ジェラルド・ハウグ(ドイツ科学アカデミー・レオポルディーナ会長)
日本	梶田 隆章(日本学術会議会長)
イギリス	イアン・ウィギンズ(英国王立協会国際部長)
アメリカ	マルシア・マクナット(全米科学アカデミー会長)

招請者
フィリップ・ロッシ(グローバル・ヤング・アカデミー理事)
ナリンダー・クマール・メヘラ(インド国立科学アカデミー副会長)※2023年G20議長国インドのナショナルアカデミー
ピーター・グルックマン(国際学術会議会長)



# Gサイエンス学術会議2023関係分科会 構成員

Gサイエンス学術会議2023対応分科会・構成員	
高村 ゆかり(委員長)	日本学術会議副会長(国際担当)、東京大学未来ビジョンセンター教授
梶田 隆章(副委員長)	日本学術会議会長、東京大学卓越教授、東京大学宇宙線研究所・教授
橋本 伸也	日本学術会議第一部部長、関西学院大学文学部教授
武田 洋幸	日本学術会議第二部部長、京都産業大学生命科学部教授
吉村 忍	日本学術会議第三部部長、東京大学副学長、大学院工学系研究科教授

Gサイエンス学術会議2023「気候変動」執筆対応小分科会・構成員	
小池 俊雄(委員長)	国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)センター長、東京大学名誉教授、政策研究大学院大学連携教授
三枝 信子	国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域・領域長
高橋 深	国立研究開発法人国立環境研究社会システム領域・副領域長
森 章	東京大学先端科学技術研究センター 教授

Gサイエンス学術会議2023「ヘルス」執筆対応小分科会・構成員	
荒井 秀典(委員長)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長
郡山 千早(副委員長)	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授
飯島 勝矢	東京大学未来ビジョンセンター・高齢社会総合研究機構教授
山田 あすか	東京電機大学未来科学部建築学科教授
和氣 純子	東京都立大学大学院人文科学研究科教授

Gサイエンス学術会議2023「海洋」執筆対応小分科会・構成員	
原田 尚美(委員長)	東京大学大気海洋研究所国際・地域連携研究センター教授
大越 和加	東北大学大学院農学研究科教授
西本健太郎	東北大学大学院法学研究科教授、国立極地研究所国際北極環境研究センター教授
安田 仁奈	東京大学大学院農学生命科学研究科教授



## 1. 各国アカデミーとの連携・交流②

### ● サイエンス20(S20) 2023への対応

G20参加各国の政府首脳に対する科学的観点からの政策提言を作成、共同声明として公表

- ✓ 2023年の主催国はインド。インド理科大学院(IISc)とインド国立科学アカデミー(INSA)の主導により、S20サミットを7月に開催。高村副会長が出席予定
- ✓ 声明案のとりまとめにあたり国際委員会及び関係分科会に意見照会。また、準備会合に荒井秀典第二部会員を派遣予定
- ✓ 全体テーマは

“Disruptive Science for Sustainable Development”

個別テーマは

- (i) Clean Energy for a Greener Future
- (ii) Universal Holistic Health: Cure and Prevention of Disease
- (iii) Connecting Science to Society and Culture



# 1. 各国アカデミーとの連携・交流③

## ● 二国間交流

### 英国王立協会(Royal Society)との交流・連携強化

- ✓ 2022年11月3日、英国王立協会とのネットゼロに関する科学技術対話を開催(於:日本学術会議)
- ✓ 2023年2月20日のバイ会談(英国王立協会会長、副会長、日本学術会議会長、副会長が出席。定期的に開催)において、本テーマでの対話継続を確認

### バイ会談の実施

- ✓ 2023年3月、Gサイエンス学術会議2023で来日した、全米科学アカデミー会長、ISC(国際学術会議)会長、イタリア・リンツェイ国立アカデミー国際担当役員とバイ会談を実施



# 1. 各国アカデミーとの連携・交流④

## ● 第15回 Academy of Science

### President's Meetingの主催

- ✓ STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム)  
第19回年次総会の分野別会議として、日本学術会議が主催  
(2022年10月3日、於:京都国際会議場)  
会議テーマ: Enabling Sustainability by Enhancing Climate Resilience  
(気候変動に対するレジリエンスの強化による持続可能性を目指して)
- ✓ 今秋の第16回Academy of Science President's Meetingに向けて、主要参加国に参加要請を開始(英国王立協会、全米科学アカデミーなどが参加を表明)



# 1. 各国アカデミーとの連携・交流⑤

## ● 世界科学フォーラム (World Science Forum: WSF) 2022への参画①

- ✓ 2003年(平成15年)から開催。科学者をはじめ政策決定者や民間部門の代表者を集め、科学の役割と貢献についての議論や政策提言を行う
- ✓ 2022年(令和4年)は、12月に南アフリカ・ケープタウンで開催
- ✓ 日本学術会議から副会長(国際活動担当)が委員としてWSF執行委員会に参加
- ✓ 若手アカデミーを中心とするセッションを国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)と共催(次頁に詳細)
- ✓ 会議の成果として、ケープタウン宣言採択



## ● 世界科学フォーラム (World Science Forum: WSF) 2022への参画②

- ✓ 日本学術会議若手アカデミーと国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)との共同企画セッションを実施
- ✓ テーマは「Ecosystem to enhance global public good with science: distributive justice and well-being as key concepts」

- ✓ 日本学術会議からは若手アカデミーの近藤康久連携会員、標葉隆馬連携会員(特任)が参加
- ✓ 社会正義のための「分配的正義」の視点から、ジェンダー平等／公平、科学技術交流をめぐる南北問題などについて、海外の研究者と活発な議論を交わした



テーマ別セッション「Ecosystem to enhance global public good with science: distributive justice and well-being as key concepts」での標葉隆馬連携会員(特任)発表の様子(12月8日)



## 2. 加入国際学術団体等への貢献①

### • 代表派遣

- ✓ 加入する43の国際学術団体等に対し、日本学術会議から代表者を派遣、ナショナル・アカデミーとして活動
- ✓ 国際学術団体における国際基準制定などの議論に参画することで、日本の学術のプレゼンスの向上に貢献
- ✓ **代表派遣(2022年度)の実施状況**  
36会議53人を派遣  
(現地19会議25名、オンライン19会議28名)

※会議数に重複あり

- ✓ **代表派遣計画(2023年度)を決定**

2023年3月時点で28会議29人の派遣を決定  
(総会・理事会等17会議17人、その他11会議12人)



## 2. 加入国際学術団体等への貢献②

### • 国際学術会議(ISC)への参画

- ✓ **ISC常設委員会「科学における自由と責任の委員会」**  
(CFRS: Committee for Freedom and Responsibility in Science)  
・隠岐さや香連携会員が参加(任期:2022年~2025年)
- ✓ **ISC共催プロジェクト「都市環境の変化と健康委員会」**  
(UHWC: Urban Health and Wellbeing Committee)  
・中村桂子連携会員が参加(任期:2020年6月~)
- ✓ **ISC加盟国際学術団体の日本人役員等との意見交換会の実施**  
2023年3月28日、ISC加盟国際学術団体、ISC主催科学イニシアチブに参加する日本人役員・経験者等約50名が参加する、オンライン意見交換会を開催。小谷元子ISC次期会長・白波瀬佐和子ISC副会長が出席しISCの最新の動向を共有
- ✓ **ISCメンバーズミーティングへの出席**  
2023年5月10~12日、パリで開催されるISCのメンバーズミーティングに高村副会長が出席予定



## 2. 加入国際学術団体等への貢献③

### ● IAP(InterAcademy Partnership)への参画

- ✓ IAP for Policyへの参画
  - ・日本学術会議は理事アカデミーとして参画  
(任期 2017年～2022年 ※2019年度の定款改正で2020年から延長)
- ✓ 2022年11月、3年に1度のIAP総会が米国(ハイブリッド)で開催され、IAP for Science・IAP for Policy・IAP for Healthの3組織が統合。新役員の下、新しいIAPとして活動が開始。日本学術会議もオンライン参加
- ✓ 日本学術会議は、ISC等分科会を中心にIAPへの対応を審議し、IAP声明作成のためのワーキンググループへ専門家を派遣する等適宜協力
- ✓ コミュニケーション・教育・アウトリーチに関する委員会  
(Development and Programme Committee on Communication, Education and Outreach)
  - ・ 日比谷潤子第一部会員が委員に選出。任期:2022年～2024年
  - ・ IAPの活動の中心的なプログラムの検討・推進を担う「開発とプログラム委員会(Development and Programme Committees)」を構成する3つの常設委員会の1つ



## 3. 国際学術会議の共同主催及び後援

### ● 共同主催国際会議の主催

- ✓ 令和4年度共同主催国際会議として、12月に「第20回 CIGR(国際農業工学会)世界大会2022」及び「第22回国際栄養学会議」を開催
- ✓ 「第22回国際栄養学会議」では秋篠宮皇嗣妃殿下の御臨席及びおことばを賜った
- ✓ 令和6年度共同主催候補国際会議として「第13回計算知能に関する国際会議」などを幹事会決定
- ✓ 令和5年度共同主催国際会議として「第1回国際研究皮膚科学会」などの開催に向け準備中

### ● 国際学術会議の後援

- ✓ 第34回国際生物科学連合総会及び第5回アジア太平洋研究公正ネットワークミーティング2023の後援を決定



## 4. 国際学術会議の主催

- 「持続可能な社会のための  
科学と技術に関する国際会議2022」
  - ✓ テーマ: 災害と健康 “Disaster and Health”
  - ✓ 日程: 2023年1月25日、26日(オンライン開催)
  - ✓ 概要:
    - サブテーマ「公衆衛生資源の備えとガバナンスの強化」及び「防災と福祉～誰一人取り残さない社会の構築～」による発表とディスカッション
    - 持続会議2022分科会委員長(武田洋幸第二部部長)を中心に、企画案の検討及び準備実施
    - 幅広い分野の10名の著名な研究者が国内外から登壇
    - 1日目は約190名、2日目は約170名が視聴
    - HPに発表資料・議事要旨を、YouTubeに会議動画を掲載



## 5. アジア学術会議(SCA)の運営



- ✓ 日本学術会議が事務局(事務局長: 澁澤栄連携会員)を務め、18か国・地域の31機関が加盟。毎年、各国持ち回りで会議を開催
- ✓ 2023年は、10月19～21日に韓国学術院と韓国科学技術アカデミーがソウルで開催する予定。会合全体のテーマは、“Science for Sustainability, Resilience and Human Well-being”で検討中
- ✓ 日本学術会議が基調講演者に推薦した北島薫第二部会員とサトリオ・スマントリ・ブロジヨネゴロ・インドネシア科学アカデミー会長が登壇予定



## 6. フューチャー・アースの国際的展開

日本学術会議は、2021年9月のフューチャー・アース総会から新たに発足した国際事務局(9か国・地域にて構成)ハブの一つである日本ハブの主要支持機関として機能

- ✓ 「令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針」及び「フューチャー・アースに関する国際会議等への外国人招へいの基本方針」を決定し、令和5年度の活動計画を策定
- ✓ Governing Council(ファンダーズグループを始めとするフューチャー・アースを構成する各グループから選出された代表者により構成される評議会)において、メンバーの一人である高村副会長が「GRNs レビュープロセス文書の改訂について」に承認投票



## 7. 国内外への情報発信

- ✓ 国際活動の成果の発信
  - HP及びTwitterの活用、会議動画をYouTubeに投稿
    - ・持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022(2023年1月)
    - ・Gサイエンス学術会議2023共同声明(2023年3月)
  - Twitterで二国間交流等の様子をレポート
  - 共同主催国際会議の市民公開講座をTwitterで紹介
- ✓ 日本学術会議法の英訳暫定版を法務省・日本法令外国語訳DBシステムに公開(2023年2月)  
<https://www.japaneselawtranslation.go.jp/ja/laws/view/4223>

その他、国際学術団体や各国アカデミー等の情報発信や国際学術団体が有する広報ツールの利活用を継続

